

アジア大洋州医師会連合（CMAAO）の活動

CMAAO パキスタン総会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2022 年 9 月 23 日、24 日にハイブリッド会議として開催された。日医から、松本会長（CMAAO 理事）、角田副会長、今村常任理事（CMAAO 事務総長）、村田真一弁護士（CMAAO 法律顧問）がオンラインで参加した。参加は、13 医師会（日本、バングラデシュ、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ）から約 50 名、欠席は 6 医師会（オーストラリア、カンボジア、マカオ、ネパール、ニュージーランド、スリランカ）であった。

初日の理事会では、冒頭、今村常任理事が事務総長に任命されたことが議長より報告された。議事では、前回議事録の承認、事務総長報告、財務報告、将来の総会開催地の確認等が行われた。

総会式典では、パキスタン医師会サルマ・アスラム・クンディ会長による歓迎挨拶、第 38 代会長であるタイ・ユアン・チウ台湾医師会長による開会挨拶、世界医師会オトマー・クロイバー事務総長による来賓祝辞が述べられた。第 39 代会長（2022-2023 年）には、パキスタン医師会カジ・ムハンマド・ワジク理事が就任した。また、財務担当役員よりパキスタンにおける大規模洪水被害の被災者支援として、義援金 3 万ドルをパキスタン医師会に贈ることが提案され、全会一致で決定した。

翌日の総会では、「COVID-19 パンデミックにおける医療」をテーマとし、パキスタン医師会ティーブ・サルタン元会長による第 19 回武見太郎記念講演が行われた。議事では、同テーマに関する CMAAO カラチ決議が採択された。今後の総会の予定として、2023 年バングラデシュでの開催が確認され、同国医師会のムスタファ・ジャラル・モヒウディン会長が次期会長に就任した。

加盟各医師会のカントリーレポート、「COVID-19 パンデミックにおける医療」に関するレポート、第 19 回武見太郎記念講演等をウェブサイトに掲載し、情報共有を行った。

本会は、カントリーレポートで、6 月 25 日に松本吉郎会長が会長に就任して新執行部が発足し、「地域から中央へ」「国民の信頼を得られる医師会へ」「医師の期待に応える医師会へ」「一致団結する強い医師会へ」を 4 つの柱として医師会運営を行っていくことを表明したことを説明した。具体的な取り組みの項目として、「国民の健康と生命を守る」、「現場からの情報収集と連携」、「組織力強化」、「新型コロナウイルス感染症および新興感染症への対応」、「国民皆保険制度および医療提供体制の堅持と持続性の確保」、「超高齢社会への対応」、「医師の働き方改革」、「国民の信頼回復のための情報発信」、「医療界における DX」を挙げた。また、岸田文雄内閣総理大臣、加藤勝信厚生労働大臣らと会談を行い、政府と医師会で協力して COVID-19 対応を継続していくことを確認したと報告した。

また、「COVID-19 パンデミックにおける医療」に関するレポートでは、感染症対策における日医と地域医師会の連携・活動、急速な COVID-19 感染拡大状況を改善するための地域でのトリアージ機能の構築、地域外来、検査センターでの業務分担、在宅患者のフォローアップ、高齢者施設と協力医療機関の連携、さらに、国内の感染状況、ワクチン接種率の推移、罹患後症状解明に向けての取り組みなどについて報告した。